務免除が適用されなければ、人口減少対策として意味がないと考えています。

地元に戻ってくるためには「雇用」の充実が必要不可欠です。その点は、十勝・北海道の強みである第一次産業あるいは、観光産業、エネルギー産業などを中心に新たな雇用を作る一方、今後、多くの人員が必要となる介護・福祉の現場も、労働条件、環境の整備を行うことで、地元就職の選択肢の一つになるよう政治は力を注がなければならないと考えています。やる気のある若者に対する起業支援も地域活性化には必要不可欠です。

■経済の落ち込みは交流人口（観光客）増で補う

もう一つの視点は、人口が減ることによる目先の経済の落ち込みをどのようにカバーするのか、です。

人口減少に歯止めをかける、特に出生率を上げていくには長い期間が必要となります。それを待っていたのでは目先の経済の落ち込みは補いきれず、地方の衰退につながります。経済を持続させるためにもスピード感をもって取り組まなければなりません。

そこで、私は、その方策の一つとして、**交流人口の増加**、つまり**観光客の増加**によって経済を支える政策をすぐにでも推進すべき、と考えています。

国内、道内の観光客は確かに増加傾向にありますが、十勝・根釧・オホーツクの観光客を足しても函館圏にはまだ及びません。しかしこれは、まだまだ観光地としての伸びしろがあるという証でもあると考えています。

観光客を増やすには、その地域の持つ観光資源にしっかりと光を当て、うまく組み合わせ、発信することが重要です。

十勝の場合、そのキーになるのは「モール温泉」だと考えています。世界的にも大変珍しいモール温泉ですが、ドイツのバーデンバーデンという町は、このモール温泉を上手に使いヨーロッパ中から観光客が集まる滞在型観光地となっています。

バーデンバーデンはモール温泉だけではなく、美味しい食があり、ワインの産地であり、競馬が名物だそうです。

私たちの十勝にも、モール温泉があり、美味しい食があり、十勝ワインがあり、ばんえい競馬があります。観光資源から考えてみれば、この十勝はアジア中から人が集まる滞在型観光地になりうる可能性を秘めていると私は考えています。

そして、十勝が季節を問わず観光客が多く訪れる地域になれば、観光業界、関連産業の経営の安定にもつながり、非正規雇用の正規雇用化や新しい雇用が生まれます。これからは、観光は経済政策の中心の一つに置かれるべきである、と私は考えています。

人口減少社会は地方にとって独自性を発揮する大きなチャンスでもあります。それとともに、厳しい地域間競争の本格的な幕開けでもあります。人口減少時代に私たちの十勝はどうあるべきか、その未来図をしっかり描かなければなりません。